

絆としてのアート

グローバル・ディアスポラ⇔東北

Art as “KIZUNA,” Global Diaspora & TOHOKU

The Rhetoric of Diaspora

3・11、9・11、ヒロシマ、フクシマ・・・最近、連続の記念日に、ローカルとグローバルの関係について改めて考えさせられます。災害時に、詩は贅沢や現実からの逃避のように見えるかもしれませんが、しかし、物資援助だけではなくて、精神的な援助も必要ではないでしょうか。このワークショップでは、参加者の方に、ご自分のフィールドに近いディアスポラから代表的な詩や歌詞を紹介していただいて、ロール・プレイによるパフォーマンス（寸劇）・コラボレーションを体験し、フィールドにおける応用について討論します。ディアスポラの人々が詩や歌で表現してきた孤立、疎外、喪失は、東北やハイチの被災者の人々の心にどう響くか。励み、癒し、希望、エンパワーメントに繋がるか。私もいくつかの作品を用意しますが、どうぞお勧めの詩や歌詞を持参し、共有しましょう。共有の過程で、偽の類推、偽の連帯、翻訳の可能性、文化的表象のような問題についても議論しましょう。

コーディネーター：ジェリー・ヨコタさん

(大阪大学大学院言語文化研究科・教授)

対象： 関心のあるすべての人々（予約不要）

日付： 2011年9月28日（水曜日）

場所： 大阪大学スチューデントコモンズ・セミナー室2（大阪府豊中市待兼山町1-16 大阪大学教育研究実践センター研究教育棟第1棟2階） <http://bit.ly/banPOM>

時間： 午後5時～午後7時

主催： 大阪大学GLOCOLディアスポラ研究会

共催： グローバルCOEプログラム「コンフリクトの人文国際研究教育拠点」研究プロジェクト班「在日外国人支援の現場における参与実践」

照会： tiocaima7n@me.com（池田光穂・大阪大学コミュニケーションデザイン・センター（CSCD）教員）